田辺市立美術館NEWS
ORANGE
Vol.24

REPORT

館蔵品展「咲く-雑賀清子のスケッチより」2月6日(土)〜3月21日(月・祝)　熊野古道なかへち美術館

雑賀清子(1933ー　)が長年にわたって当地で重ねてきた植物のスケッチを紹介するこの展覧会は、身近な草花に寄せられたまなざしと表現、そしてこの地の自然とその魅力をお伝えするということがテーマになりました。展示以外に「交流スペースを花いっぱいに!」という、みなさんのスケッチで交流スペースの壁を満たしてゆく催しを行いました。最終的に100点以上ものスケッチが集まり、本当に交流スペースが花いっぱいになりました。大成功だったこの企画ですが、実のねらいは、花のスケッチをしていただくことで、普段見逃しているかもしれない自然の美しさや移り変わりを感じ取っていただくことでした。私自身も「ホトケノザが咲き始めたな」、「この小さな黄色い花はなんだろう」と感じたり観察したりする機会となりました。自分がどれだけ足下にもある自然の豊かな表情を気にかけていなかったか、しみじみと思いました。参加してくださったみなさんにも、身の回りの小さな花、少しの自然の変化を改めて意識していただく機会になったとしたらとても嬉しいことです。

もう一つこの展覧会では、地元の高校生にスケッチに描かれている植物の解説をお願いするという試みも行いました。これについては、今号の「田辺市立美術館へのきもち」に、ご指導と監修をしていただいた理科教諭の土永知子先生のご寄稿をいただいていますので、ご一読いただければと思います。

みなさんのスケッチで花いっぱいになった交流スペース

(学芸員　知野　季里穂)

田辺市立美術館へのきもち⑭

私は植物について調べることを続けている。たとえ絵画や写真であっても、真っ先にこの植物の名前は何かな、とつい思ってしまう。今までの知識に照らして一応名前がわかると安心する。

昨年11月、田辺市立美術館から田辺高校生物部の生徒に、2月から熊野古道なかへち美術館で開催する館蔵品展「咲くー雑賀清子のスケッチより」に出品するスケッチに描かれている植物名を調べて、高校生の感性で解説を書いて欲しいという依頼があった。放課後、生物部員がスケッチの写真を見て植物図鑑で名前を調べていると、いつも生物実験室周辺で活動をしているワンダーフォーゲル部の部員も興味を持った。それなら、美術部にも声をかけてみようということになり、3つのクラブの生徒がかかわることになった。私自身もこの企画に参加して、改めて道端のハルノノゲシを探した。美術館から渡されたスケッチの写真を見て、あんなに赤い色だったかな、と気になった。春まだ遠い寒風に、黄色い花が震えていた。確かに葉や茎はエンジ色を帯び、いくらか透き通って見える。だいたい、ハルノノゲシ(春の野罌粟)が冬に花を咲かせているのなんて、今まで気に留めたこともなかった。しかも、その凛とした美しさといったら。厳冬のハルノノゲシが愛おしくなった。

屏風に描かれた植物など、写真では名前がわからないものがあった。そこで、美術館を訪問して作品を見せてもらうことになった。収蔵庫では学芸員の方の案内で、いくつもの鍵のかかった扉をくぐり、照明を落とした部屋でマスクをして、緊張して田辺市の宝物を観た。紙の質感、やわらかい色合いがベンライトの光で浮かび上がった。写真ではわからなかったスケッチそのものの美しさに感動した。田辺市立美術館に行ったことがない生徒や、熊野古道を歩いてモダンな建物が気になったけれど熊野古道なかへち美術館には入ったことがないという生徒もいた。今回貴重な体験をさせていただき、参加した生徒には美術館が急に身近な存在になった。

開幕した展覧会に行ってみた。添えられている作者のことばには、込められた気持ちがにじんでいた。ユキノシタのマットな白い花びらは、しばらく見ていると紙から浮かび上がってきて、風にひらひらと動きそうな気がする。質感、微妙な色あいなどは、ドットの集合体である写真ではとても表現しきれないと思った。私たちはスケッチに植物名というデジタル情報のみではなく、地元の植物に関する人々の生活や文化、高校生の感想などのアナログ情報をいっしょに紹介しようと試みた。それが「いのちの輝きを封じ込めたような作品」にすこしでも趣を添えることができたなら、幸せだったと思う。何より、この企画で田辺高校と美術館がかかわりを持てたことが嬉しい。今後も、若者を取り込んだ新鮮な取り組みに期待したい。

高校生のみなさん、学校での勉強も大事だけど、もっと美術館へでかけてみてはどうだろう。そこには予測できないアナログの感動が待っている。

美術館でスケッチを確認する生徒たち(昨年の12月13日)

(和歌山県立田辺高等学校教諭　土永　知子)

絵画と出会う「この一点!」

鈴木理策写真展　ー意識の流れー

会場：田辺市立美術館
会期：平成28年4月16日(土)〜6月26日(日)

鈴木理策(1963ー　/和歌山県新宮市出身)は、写真というメディアについての深い考察によって、「見ること」への問いを投げかける作品を発表し続けている、現代を代表する写真家の一人です。

鈴木は1980年代半ばから創作活動をはじめ、1998年に故郷、熊野に至る道のりをテーマにした初の写真集『KUMANO』を上梓しました。この時期に展開された、ロードムービーのような物語性によって意識に柔らかに働きかける瞬間瞬間の対象への視点の移動は、その後長い時間を見通したまなざしへと変化し、熊野、桜、雪といった、悠久の自然を対象にした表現へと移行してゆきました。

ここに紹介する《海と山のあいだ 14.DK-304/2014》は、鈴木がそのまなざしへと変化した後の作品で、古来信仰の対象とされてきた熊野を撮影したシリーズ、「海と山のあいだ」からの一点です。このシリーズは何枚かの写真のつながり、もしくはそのまとまりで見せられることが前提となっています。また8×10インチという大判フィルムを使用して撮影し、巨大な印画紙に引き延ばされた風景には膨大な量の情報があふれています。一度には把握できない構造と容易に見尽くせない内容に、見るものは熊野の奥深くへと分け入ってゆくような感覚におちいり、遂には「見る」という行為に没入してゆきます。

鈴木の写真に対峙するとき、このように私たちは純粋な「見る」という行為へと誘われ、意識の奥底を直接ゆさぶられるような体験をします。鈴木の熊野にむけられたまなざしと鑑賞者の意識が共鳴し合うとき、今までに経験したことのないみずみずしい光景がそこに立ち現われます。

鈴木理策《海と山のあいだ 14.DK-304/2014》
©Risaku Suzuki/Courtesy of Gallery Koyanagi

(学芸員　知野　季里穂)

麻田鷹司《那智E》　1960(昭和35)年

作品紹介　麻田鷹司《那智E》　田辺市立美術館蔵

「我等は世界性に立脚する日本絵画の創造を期す」との綱領を掲げて、1948(昭和23)年に山本丘人、吉岡堅二、上村松篁らは「創造美術」を結成し、既成の日本画壇の体質を批判して、日本画の表現の革新に取りくんだ。その「創造美術」が主宰した第一回の展覧会に、当時20歳で京都市立美術専門学校在学中だった麻田鷹司は応募し、入選する。以後、風景画を制作の主におき、それを現代的な造形で刷新してゆこうとする麻田の活動は「創造美術」、その後の「新制作協会日本画部」で高評を受けて注目され、やがては戦後の若手日本画家を代表する一人となった。《那智E》は、1960(昭和35)年、31歳のときに開いた初めての個展で発表された「那智」連作の一つである。国宝となっている鎌倉時代の《那智瀧図》(根津美術館蔵)を念頭に置き、その構成を適用しながら自身の表現を開拓する意欲的なこの連作の制作によって、麻田の風景画は彫琢され、ゆるぎないものとなった。その後の作品の心思の深まりもこの時期に本格的になっていったとみてよいだろう。

(学芸員　三谷　渉)

編集後記

ORANGEvol.24をお読みいただきありがとうございます。田辺市立美術館は11月に開館20周年を迎えます。夏には、それに先立っての記念特別展を予定しています。また、秋からの開館20周年コレクション展は、担当学芸員それぞれの専門と個性が出る魅力のある展覧会になりそうだと期待しています。その他、関連イベントなど、毎月、美術館を楽しめる企画もしています。皆様のご来館をお待ちしています!

(担当m.m.)

田辺市立美術館NEWS ORANGE Vol.24
編集・発行：田辺市立美術館／熊野古道なかへち美術館
発行年月日：平成28年4月1日

田辺市立美術館
〒646-0015　和歌山県田辺市たきない町24-43
TEL.0739-24-3770　FAX.0739-24-3771
http://www.city.tanabe.lg.jp/bijutsukan/

田辺市立美術館分館
熊野古道なかへち美術館
〒646-1402　和歌山県田辺市中辺路町近露891
TEL.0739-65-0390　FAX.0739-65-0393
http://www.city.tanabe.lg.jp/nakahechibijutsukan/

平成28年度展覧会案内

1. 特別展 鈴木理策写真展ー意識の流れー
「見ること」への問いを続けてきた現代を代表する写真家の1人、鈴木理策の活動を紹介します。「見る」という行為から生まれる「意識の流れ」をテーマにした近年の4つのシリーズを展観します。

2. 田辺市立美術館開館20周年記念特別展
昭和の洋画を切り拓いた若き情熱 1930年協会から独立へ
前田寛治、里見勝蔵、佐伯祐三らフランスに学んだ若い画家たちが主導し、個性豊かな洋画に新風を吹き込んだ「1930年協会」の結成から「独立美術協会」の創立にいたる活動を、関係した主要な画家たちの作品によって振り返ります。

3. 田辺市立美術館開館20周年コレクション展 現代絵画
田辺市立美術館の開館20周年を記念して、そのコレクションから現代絵画を厳選して熊野古道なかへち美術館で紹介します。

4. 館蔵品展 戦後の日本画
田辺市立美術館で開催する麻田鷹司の回顧展にあわせ、樊伯一郎、麻田鷹司など戦後の新しい日本画の表現を切り拓いた画家たちの作品を展観します。

★美術館開放講座
かみ、カミ、紙〜谷内ひねおさんとつくる〜
カミの虫、かみの森
絵画制作、谷内里佐さんとともに「虫」をつくり、展示室に「森」を生み出すワークショップを開催します。はがきあがった展示室の「カミの虫・かみの森」は無料で公開します。

鈴木理策《水鏡 4.WM-61/20.14》
©Risaku Suzuki/Courtesy of Gallery Koyanagi
個人蔵

三口美矢(さん)《三三三　愛へ風》

世界を旅する谷内さんの想像の森へ!ミニ谷内作品を展示します

田辺市立美術館　TANABE CITY MUSEUM OF ART
KUMANOKODO NAKAHECHI MUSEUM OF ART　熊野古道なかへち美術館